

# 令和五年度 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 税金はめぐりめぐる

大三輪中学校 一年 瀬尾 雪乃

夏休みに障がいのある方とお話をしました。「私は、社会に守られて生きています。障がいの等級が高いので、働くことも一人で生活のすべてを行う事もできません。それでも体が悪いのでなんども病院へ行かなければなりません。すぐに買い物に行かなければいけない時でさえ、不自由します。家にいても話し相手になってくれる人もいません。病気の辛さを分かち合える人もいません。体のいろんなところが健康であるかどうかもわかりません。本当なら生きてはいけません。」

「でも私は生きています。それは社会資源のおかげです。その社会資源は税金でまかなわれています。私のような社会的弱者が生きる事を許されるのも、ほんのささやかな事だとしても、幸せを感じる事ができるのも、全て税金のおかげなのです。社会資源は私に健康やヘルパーさんという力強い生活をして行く上での味方、また訪問介護の方と会うことでお話をできたり自分の痛みを話す事ができたりと、沢山の資源に支えられて生きています。最近はその支援に対して、私が何かお返しできる事はないかと考えるようになりました。それはもちろん私が感謝の心を忘れず生活させてもらう事だけれど、それ以外に何かないかとよく考える様になりました。私にできる事は少ししかありません。ですが少しでも何か人の役に立てる事ができれば、社会に少しでもお返しする事ができるのではないと思う様になりました。それはお買い物に行く事ができた時、地震や災害などの募金の箱へお釣りの中から少しでも募金をするという事も私にできる一つではと思っています。税金を納める事ができない私ができること、それは自分ができる範囲のボランティア。募金も、元をたどれば社会から頂いている税金です。それが例え一円でも困っている方々に募金できれば、思いやりをめぐりめぐらす事になると思うのです。」

私はそれを聞いて、税金というお金が、また別の人を助け、幸せにしているんだなと思いました。その時、私の目をじっと見つめて、「私は税金に心から感謝しています。」とおっしゃいました。

このようなお話を聞いた時、税金というものは、「人間」をいかに大切にしているかという事がよくわかりました。今まで自分が買い物をした時に消費税を払っていても、いまいち深く考えてはいませんでした。自分がおこづかいで払う税金で、知らないどこかの人を助けたり、希望の光になったり、そして幸せにもしているんだと思うと、少しほこらしい気持ちになりました。これから大人になり、色々な税金を納める時が来ても、税金の先にいる人達や沢山の社会の必要な事のために、ほこりを持って、納める大人になりたいと思います。